

短期予報解説資料 2026年1月27日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5340m付近で -36°C 以下の寒気を伴ったトラフが中国東北區を南東進。対応して日本海を低気圧が東進。

② 500hPa 5700m付近の正渦度極大域に対応して東シナ海を低気圧が東進。低気圧に向かって下層暖湿気が流入しており、東シナ海では激しい雨を解析。メソサイクロンを検知。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は発達しながら東北東進し、27日夜には三陸沖に進む。低気圧に向う下層暖湿気と上空

寒気の影響で、東北地方～東日本では大気の状態が不安定となり、雷を伴い雪が強く降る所がある。東北地方や北陸地方では27日は、大雪による交通障害や着雪、落雷や突風、降ひょうに注意。また、27日朝には関東の東に低気圧が発生して東北東進する。

② 2項①の2つの低気圧は日本の東から日本のはるか東へ進み、日本付近は28日には冬型の気圧配置となる。また、27日夜からは日本海西部にシアーラインが形成され、西～東日本の日本海側を指向してほとんど停滞する。さらに、1項①のトラフは27日夜には北海道付近で切離し、500hPaで -36°C 以下の寒気を伴う寒冷渦となって29日にかけてほとんど停滞する。北海道の西には27日夜には地上低気圧が発生し、寒冷渦の下で上空に強い寒気を伴う低気圧となって28日にかけて日本海北部をゆっくり南下し、29日は北日本を通過して日本の東へ進む。シアーラインや、北海道の西から北日本を通過する低気圧周辺では局地的に降雪量が多くなる所がある。北～東日本では29日にかけて、大雪による交通障害や着雪に注意。29日は、北～西日本では大雪に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意。

③ 2項①②の低気圧周辺及び冬型の気圧配置の影響で気圧の傾きが大きくなり、雪を伴って強い風が吹き、波が高くなり、しける所がある。北～西日本では29日にかけて、風雪や強風、高波に注意。

④ 21日から大雪に加え、2項①②に伴う新たな積雪が見込まれる。北～西日本の積雪が多い傾斜地では29日にかけて、なだれに注意。

⑤ 1項②の低気圧は27日朝までに前線を伴い、南西諸島を通過する。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる。また、低気圧通過後は、南西諸島では大陸から張り出す高気圧からの北よりのやや強い風が続き、波が高くなる所がある。南西諸島では27日は、落雷や突風、局地的な激しい雨に注意し、28日にかけて、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降水量(06時からの24時間)：東北50、北陸40、北海道・関東甲信20、東海・近畿10cm。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・北陸・伊豆諸島・近畿・中国・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図